

安比高原 ふるさと分校

体験・分宿型修学旅行のご提案

2004 - 2005年版

安比高原ペンションビレッジ会の歩み

修学旅行の受け入れについて

安比高原ふるさと分校とは

安比高原ふるさと分校とは

イーハトーヴォ自然学校とのかかわり

安比高原ふるさと分校の概要

付 表

安比高原ふるさと分校ペンション一覧

連絡先一覧

安比高原エリア・マップ

岩手県岩手郡安比高原ペンションビレッジ

<http://www.appi.co.jp/~pv/>

安比高原ペンションビレッジ会の歩み

1985年(昭和60年)第一期11軒のペンションのオープンをもって、安比高原ペンションビレッジ会の歩みが始まりました。

初めの2年間は親睦団体『オーナー会』としてスタート致しましたが、第三期オープンで計31ペンションとなったのを機に、「会員・家族の親睦」と「営業活動」を目的に改組・改称、安比高原ペンションビレッジ(PV)会が発足し、19年を経ております。

この間、

安比温泉の復元再開事業
福祉バザーの開催
地元町村のイベントの協力

等、地元住民との交流を深めてまいりました。

また、安比高原の季節ごとに定番化された

自転車ロードレース： ツール・ド・モリオカ・ステージA P P I大会(1989年より)

<http://www.appi.co.jp/tdm-race>

世界一のバイクトライアル： イーハトーブ・トライアル(1985年より)

<http://www.sukaheru.net/~ihatove/>

大晦日1000発のカウントダウン： 安比高原除夜の花火(1991年より)

<http://www.ashiro.net/~kankou/>

の企画・実施運営に深く関わり、

参加者2000人のファミリーマラソン： あっぴりレー・マラソン(1994年より)

<http://www.sukaheru.net/~appirelay/>

ファミリーで楽しむ歩くスキー： ラングラウフ チャレンジ(1999年より)

<http://www.sukaheru.net/~langlauf/>

などにも、協力・協賛・後援し、盛り上げて参りました。

安比高原では国内のスキー競技大会も数多く開催されており、

岩手あしろスキー国体(1988年・1999年・2005年決定)

<http://www.ashiro.net/~60skikokutai/>

全日本学生スキー選手権大会(2002年)

にも、PVエリアを上げて積極的に協賛・協力をして参りました。

これらは全て宿泊を伴うイベントであり、大会に於いては、選手のコンディション（健康）管理と安息が強く要求されます。

安比高原P V会加盟ペンションは、食事を含めた宿泊対応・安全性の面でも高く評価されています。

安比高原P V会は、お客様の安全確保の面からも

1989年（平成元年）よりP V会主催にて防火訓練を春・秋の年2回実施。

1990年（平成2年）P V会が中心となり岩手県食品衛生協会岩手支会安比分会の設立等、事故の予防にも心掛けてまいりました。

1995年、開村10周年に当たっては、10年史を発刊し『彫刻のあるペンションビレッジの創造』を提言致しました。

『彫刻のあるペンションビレッジの創造』の提言により、1996年より「安比高原彫刻シンポジウム」を開催し、第一ステージ8年間で、安比エリアに36基の彫刻を設置しました。「星と花と緑のペンションビレッジ」は、野外彫刻ギャラリーとしても楽しめる環境になりました。第一ステージ最終年である2002年には、地元小学校の統合で閉校される2校より記念彫刻の制作を依頼されるなど、地域からも評価を得ております。

「安比高原彫刻シンポジウム」は、夏を通してのエリアイベント「APPISummer」と名前を変えて、野外彫刻展、10数軒のペンションをギャラリーにするペンションリンクギャラリー、ペンションのお庭を公開するオープンガーデン、ランチ・喫茶営業、スターウォッチングなど開催期間40日間に及ぶイベントとして定着しております。

安比高原P V会は、開村結成以来18年間、各種の事業・イベントを行って参りましたが、特に1993年以降の10年間で、県・町村からP V会が手がけた事業へ受けた地域活性化調整費等補助金は、総額6000万円を超えており、P V会の企画力・事業実行力が評価されています。

2004年6月現在、安比高原には52軒のペンションがありますが、通年営業中のペンション36軒の内、26軒がP V会に加盟しております。

2000年春、株式会社岩手ホテル&リゾートからの「安比エリアとして修学旅行誘致推進」の呼びかけに呼応し、ペンション本来の良さを十分に発揮できる「体験・分宿型修学旅行の誘致」を決め、いろいろと準備を進めて参りました。

2001年、24軒が参加して「安比高原ふるさと分校」を立ち上げ、

2002年は1校（143名）、2003年は7校（928名）、2004年は5校（626名）合計13校（1,697名）主に北海道（札幌市および道南）の中学校及び2004年は仙台市の中学校のご利用いただきました。

すでに、リピートあるいは連泊利用が発生しており、「安比高原ふるさと分校」は高い評価を頂いております。

修学旅行の受け入れについて

安比高原ペンションビレッジは、北東北の中心に位置し北緯四十度上の安比高原にあり、東西200m・南北400mの範囲内に50数軒（休業中・季節営業を含む）が立ち並んでいます。

この環境を生かし、株式会社岩手ホテル&リゾートが運営するイーハ・トーヴォ自然学校と連携して体験・分宿型方式の修学旅行受け入れを進めています。

安比高原ペンションビレッジ会・安比高原ふるさと分校は、修学旅行受け入れに関し事故の未然防止の為、次のような安全基準を設けています。

1. ペンションビレッジの受入校は、原則として1日1校とする。
2. 宿泊受入ペンションは、受入人数に関係なく貸切とする。
3. 非常時には、宿泊受入以外のペンションが時間に関係無く支援する。
4. 教師連絡用として車1台の提供。
5. 食品衛生協会岩手支会安比分会への加盟及び講習会の参加。
6. 年2回の消防訓練の参加。
7. 宿泊約款の整備。
8. 旅館賠償責任保険等の賠償責任保険の加入。

また、2003年5月に発生した宮城県沖地震の教訓を基に新たな安全対策を設定し、安比エリア・行政と係わる4)、5)については、関係諸機関と協議致しました。

- 1) 松尾村防災無線のPVエリア内単独活用。
- 2) ペンションのアマチュア無線クラブ『安比高原ハミングクラブ』の活用。
- 3) 安比地区として、第一避難場所の設定。
- 4) 停電発生時に、自家発電のあるスキー場施設の第二次避難場所利用。
- 5) スキー場・ホテルを含むエリア全体の防災計画の策定。

安比高原ふるさと分校

安比高原ふるさと分校とは？

安比高原ふるさと分校は、安比高原PV会加盟24ペンションが参加して、2001年に開校しました。

ペンション業界は一時、ペンションを利用するお客様のニーズに応えるべく、外観設備の豪華さを競い、派手な広告でそれをアピールする情報競争に巻き込まれました。また、変なプロ意識に偏りすぎ、お客様との接点に見えない壁ができたり、楽をして仕事をこなそうとする意識があった時期もありました。バブルが弾け世の中の景気が落ち込むと、今度は他との差別化を計るべく付加サービス競争になりました。

そんななか私達は、真剣に話し合いました。「本来ペンションの持つ大切な部分とは何だろうか？」「開業するとき抱いていた気持ちはどんなだったろうか？」と・・・。

それは宿屋とお客の関係ではなく“人と人との心の交流”を思い出すことでした。幸いにも、安比高原ペンションビレッジは北東北の中心に位置しアクセスにも恵まれ、オールシーズン楽しめるリゾート地です。おいしい空気とさわやかな風、そして鮮やかな緑。そこに立つだけで大自然の体験を学習出来ることでしょう。

私達にとって生徒さんは孫のような、めんこい存在です。家族的な雰囲気の中なかで、一緒にたくさんの時間を過ごす時、私達に心の原点を思い出させてくれます。そんな生徒さん達に安比高原が“こころのふるさと”になれるような、思い出づくりのお手伝いができると思っています。

イーハトーヴォ自然学校とのかかわり

八幡平国立公園の北部に広がる1200haの広大な土地に安比高原があります。そんな岩手の自然は広く奥深いといわれます。ナチュラルリスト宮沢賢治は理想郷イーハトーヴォと名づけました。

株式会社岩手ホテル&リゾートでは、1999年頃より体験メニューの開発に取り組み、2001年、その土地での体験を通じて「自然と人間の関係」「地球環境を学ぶ場」を、21世紀を担う子供達の未来に残すべく、イーハトーヴォ自然学校を開校しました。

いま大切なのは、かつて野や川での遊びから学んだ自然への不思議や驚き、尊敬、命の尊さを、体験を通じて感じる事だと思います。

イーハトーヴォ自然学校は、そのような観点から独自のプログラムを作り提供しています。この恵まれたフィールドを舞台に、自然と人間の関わりをテーマにした自然体験、スポーツ体験をはじめ、ペンション村など周辺地域との協力体制による食・農業・生活文化交流体験など、参加者との情報交換により希望のプログラムを提案できる体制を整えております。

安比高原ふるさと分校加盟ペンション23軒の内18人のオーナーは、イーハトーヴォ自然学校のフィールドパートナー、また体験プログラムのインストラクターとして、自然学校の全アイテムの約半数に関わり、体験者と接し交流を持ち自然との対話を楽しみながら、思い出作りのお手伝いをしています。

安比高原ふるさと分校の概要

安比高原ふるさと分校は、安比高原ペンションビレッジ会（P V会）の修学旅行受け入れ組織として、受け入れに積極的な（体制を取れる）23ペンション（2004年6月現在、P V会員26ペンション）が参加しており、校長は、安比高原P V会村長が兼任、事務局をPアップルツリーに設置しております。

地理的条件

安比高原ふるさと分校加盟ペンションは、安比高原ペンションビレッジ（安比高原P V）に点在しています。

安比高原P Vは、安比高原スキー場の裾野に広がる、およそ東西200m、南北400mのエリアで、60軒のペンション・保養所（内12軒は休業中）があります。

行政区は、岩手郡安代町と松尾村にまたがり、両町村から同等のご支援を受けております。

P Vエリアは、安比高原スキー場とホテル安比グランドなどを経営する、株式会社岩手ホテル&リゾートのリゾート管理部門「安比リゾートオフィス」が24時間体制で管理しております。

また、施設の建設には、厳しいクライテリアが設定されており、ペンション・ホテル・保養所以外の建設はできません。したがって、P V周辺には、ペンション・ホテル以外の商店や飲食店はなく、最も近いコンビニまで、P Vエリアから直線2kmの距離があり、夜間、徒歩での利用はたいへん不便です。

分校の体制

安比高原ふるさと分校は、修学旅行受け入れ体制を次のように定めています。

- 1．安比高原ふるさと分校は、原則として、1日1校受け入れとする。
- 2．教師連絡用車両として、車1台以上、自転車数台を提供する。
- 3．宿泊受け入れペンションは、受け入れ人数に関係なく貸切りとし、他のお客との接触機会をなくする。

ペンションは、夫婦や複数のスタッフで運営されており、メンバーのほとんどが子育て終了、または子育て中です。生徒さんの受け入れについては、先生方とともに「我が子を見守る心」で接しております。ペンションでは、ホテル・旅館とはひと味ちがった、本当の意味での「ご父兄と同じ気持ち」で、優しく、時には厳しく、生徒さんのお世話をさせていただいております。

- 4．引率の先生とオーナー夫婦・スタッフを含めた、「ご父兄と同じ気持ち」での複数人管理体制で、事件・事故を未然に防ぐ。
- 5．ペンションの食事は、通常メニューとする。（修学旅行用メニューでの対応はしない）

また、個々のペンションで対応しきれない事態が発生した場合に備えて、

6. 当日、修学旅行を受け入れていないペンションが非常事態に備え、人的補助体制（監視、移動応援、通信連絡応援）、代替宿泊など、総力を挙げてバックアップ体制をとる。

具体的には、P Vエリアを3ブロックに分け、ブロック内、ブロック間で相互補完するなど、安心と安全確保のための体制をとっております。

安比高原ふるさと分校加盟ペンションは、

7. P V会モデル宿泊約款の適用。
8. 旅館賠償責任保険等の賠償責任保険への加入。
9. (財)岩手県食品衛生協会岩手支会安比分会への加入と衛生指導等講習会の受講。
10. P V会・盛岡広域消防署共催の防火訓練（年2回）への参加。

が、義務付けられております。

非常時の体制

安比高原ふるさと分校は、前述の通常時バックアップ体制に加えて、以下通りの非常時体制を取ります。

この体制は、2003年5月に発生した、宮城県沖地震の教訓を基に、新たな安全対策として整えたものです。

地震などの際、電話などの通信手段が使用できなくなり、エリアでの安全確認や学校・ご父兄へ連絡に支障をきたしました。

前述の宮城県沖地震の際は、安比エリアでは次のことが確認されました。

I S D Nを利用した e-mail は使用可能であった。

地震直後、携帯からの e-mail は可能であった。

まず、電話が使用できない場合の通信体制は、

1. 被害がない場合(軽度の場合)の、学校・ご父兄へ通信は、I S D N利用ペンションより、学校があらかじめ指定したアドレスへ e-mail を送り、学校・父兄へ状況を知らせる。
2. エリア内に2ヶ所ある公衆電話より、非常時伝言ボックスへメッセージを入れ、学校・父兄へ状況を知らせる。学校へは、あらかじめこの対応策を伝える。
3. 「安比リゾートオフィス」との協力体制のもとに、P Vエリア内の非常時連絡手段(第1次、第2次避難など)として、エリア内に2ヶ所ある松尾村防災無線の現地放送手段を使用する。
4. ペンションオーナーのアマチュア無線クラブ『安比高原ハミングクラブ』を活用し、安比エリア内通信手段を確保する。

P V会内アマチュア無線人口：9ペンション13名 = P V緊急通信周波数の徹底

- ・屋内設置無線機での交信可能範囲 (宮城県北部～北海道函館市)
- ・車載無線機での交信可能範囲 (岩手県北上市～青森県青森市)
- ・ハンディ無線機での交信可能範囲 (岩手県盛岡市～岩手県二戸市)

通信可能なエリアから、アマチュア無線のネットワークを活用し、必要な所への連絡を依頼する。

これらの実施指令は、P V会村長を長とする役員会(対策委員会)が「安比リゾートオフィス」と連携を取り、行います。

次に、避難誘導は、

1. 軽度の場合は、各ペンションの自施設避難誘導と通常時バックアップ体制で行う。
2. 防災無線等で避難指示が出された場合、あらかじめ指定した第一次避難場所(テニスコート横 彫刻広場)に誘導する。移動手段は原則として徒歩とする。
3. ペンションに帰れないなど被害状況に応じて、第二次避難場所(スキー場安比プラザ・スキーセンター)へ移動する。移動手段は、状況に応じ車両あるいは徒歩とする。

スキー場施設は、幸い自家発電装置もっているので、安比エリアでは、

- 4 . エリア内停電が発生し、スキー場自家発電が稼働している場合は、第二次避難場所（スキー場安比プラザ・スキーセンター）へ移動する。移動手段は、状況に応じ車両あるいは徒歩とする。

などの対応が可能です。

さらに、

- 5 . 想定以上の被害の場合を含め、行政・消防等関係機関との連携を密にし、関係機関の最終指示に従う。

こととします。

以上を踏まえて、各ペンションでは、

- 6 . 修学旅行打ち合わせ時、到着時に、第一次避難場所まで説明する。
- 7 . 1人当たり 1～2 L の飲料水をペットボトルで常備する。
- 8 . お風呂のお湯は、翌朝まで確保する。

ことが義務付けられます。

災害の規模により、エリア全体で相応の対応をとり、常に、安比リゾートオフィス・行政・消防等と連携した体制をとることとします。

食品衛生

安比高原エリアは、(財)岩手県食品衛生協会の中で唯一、町村単位を越えて設立された安比分会があり、全国的にもめずらしい存在です。

安比分会は岩手支会の6分会の内の1つで、エリア内には(財)岩手県食品衛生協会岩手支会理事が3人、食品衛生指導員が5人おり、いずれもPV会会員、株式会社岩手ホテル&リゾート役員・社員です。

(財)岩手県食品衛生協会岩手支会の食品衛生指導員部会長・副部会長ともに安比分会より選出されております。

これらのことから、エリアとしての食品衛生への取り組み姿勢が高く評価されています。安比分会独自の食品衛生講習会、指導員による査察、衛生相談など活発に活動しており、安比エリアのペンション・ホテルからは、いまだかつて、食中毒などの事故は出していません。

地域との関わり

安比高原PV会は、地域とも積極的に関わっております。

会員は、各種団体で活躍しており、前述の食品衛生協会理事のほか、

- ・財団法人 松尾八幡平観光協会会長は、PV会会員です。
- ・安代町観光協会理事1名は、PV会会員です。
- ・安代町商工会理事2名は、PV会会員です。

をはじめ、各種団体などのボランティア活動へも活発に参加し、地域との協調を図っています。

多才な人材

安比高原PV会ペンションのオーナーを始めとするメンバーは、いろいろな職歴をもち、多趣味・多才で、達人的人間の集まりです。

それだけに、安比高原ふるさと分校がご提案する「体験・分宿型修学旅行」は、生徒さん・先生方にも、意外性のある、あらたな感動を体験する機会となるでしょう。

<いろいろな職歴>

カメラマン、ホテルマン、電子オルガン技術者、音楽教師、一級建築士、金融マン
コーヒー店経営、航空エンジン整備士、システムエンジニア、スキーインストラクター、
魚屋、酒屋、調理師、美容師、バーテンダー、建設会社経営、薬剤士、不動産管理士、
出版デザイナー、教師、保母、主婦 などなど

それぞれの趣味も多彩で、プロの腕を持つ者も多くおります。趣味と仕事、そして、ペンション経営者としての幅広い経験と多くの人との出会いは、オーナー達の人間的面白みをさらに増してくれました。

安比高原ふるさと分校が強くご提案するペンションでの『ふれあい交流の時間』は、プロとして（あるいはプロ並みに）腕に磨きをかけ、生徒さんの体験学習に取り組んでいるペンションオーナー夫妻（スタッフ）から、趣味・仕事・人との出会い・人生観の一部を聞くだけで、これまで知らなかった世界に感動し、趣味・仕事の一部と一緒に体験するだけで面白さと厳しさを知る機会に恵まれます。

いま、子供達に必要なことは、これまで育った世界と全く違った世界を知り、見ず知らずの人間の生き方を感じることはないかと思えます。

私たちは、安比高原で新しい世界を感動のうちに垣間見た子供達が、人間性を高め人生の可能性をさらに高めていくこと願いながら、我が子を見守る思いで皆様をお迎え致します。

ふるさと分校のお薦め

安比高原ふるさと分校は、「恵まれた自然環境」、ペンション・体験施設など「整ったハード環境」、イーハトーヴォ自然学校を含めた「豊富な体験メニュー」、ペンションスタッフ・リゾートパートナーの「多才な人材」、安全と衛生に対する「安全確保のバックアップ体制と防災体制」、ご父兄と同じ気持ちの「おもてなしの心」でお迎えし、生徒さんたちの心に残る「思い出づくり」のお手伝いを致します。

安比高原ふるさと分校の体験・分宿型修学旅行は、単なる集団宿泊とは異なる、グループ宿泊(大きな集団ではない)ならでの、生徒さんとオーナー・スタッフとの距離の近い深い交流から生まれる大きな感動体験と、目の届く高い安全性の確保が可能です。

ふるさと分校宿泊参加ペンション

(2004年5月1日現在)

ペンション名	客室	定員	電話番号 (0195)	FAX番号 (0195)	
アップルツリー	6	16	(73)5171	(73)5361	事務局
1) ロッキーin	11	44	(73) 5069	(73) 5965	
2) 森のなかまたち	6	20	(73) 5569	(63) 3055	
3) アスター倶楽部	14	37	(73) 5214	(73) 5215	
4) アーベント倶楽部	9	26	(73) 5166	(73) 5586	
5) アリス	9	24	(73) 5064	(73) 5774	
6) アサンギ	11	29	(73) 5939	(73) 5165	
7) 倶楽部ウイスラー	9	25	(73) 5929	(73) 5052	
8) あるべじお	11	29	(73) 5750	(73) 5424	
9) ボーゲン	12	28	(73) 5170	(73) 5369	
10) グラシアスエスタバ	10	32	(73) 5904	(73) 5037	
11) サンダーパパ	11	25	(73) 5241	(73) 5971	
12) スターダスト	13	30	(73) 5132	(73) 5134	
13) ブローディア	10	40	(73) 5236	(73) 5238	
14) 木創天涯	7	22	(73) 5005	(73) 5125	
15) ノイスネップ	10	26	(73) 5745	(63) 3031	
16) チセアイボリー	7	22	(73) 5070	(73) 5163	
17) ウッドコック	8	26	(73) 5688	(73) 5686	
18) MIWA	7	24	(73)6888	(73)6881	
19) ユングフラウ	8	20	(73)5944	(73)5944	
20) ウイングライト	10	32	(73)5226		
21) シュールリアプール	10	29	(73)6868		
22) ドーミービラ	22	66	(73)5301		
23ペンション 計	231	672			

連 絡 先

【安比高原】

安比高原ふるさと分校 事務局 担当：坂田	0195(73)5171	岩手郡安代町安比高原 PV P.アップルツリー内	
安比高原イーハトーヴォ 自然学校	0195(73)5011	岩手郡安代町安比高原 ホテル安比グランド内	

【官公署】

安代町役場	0195(72)2111	岩手郡安代町吠田 70	車 2 0 分
盛岡中央消防署安代分署	0195(72)3119	: 吠田 109	:
岩手警察署安代町交番	0195(72)2315	: 清水 2 1 3	:
赤坂田郵便局	0195(72)5100	: 赤坂田 204	車 1 0 分
松尾村役場	0195(74)2111	岩手郡松尾村野駄	車 1 5 分
盛岡中央消防署松尾分署	0195(74)2119	:	;
岩手警察署松尾駐在所	0195(74)3011	:	:
松尾郵便局	0195(74)3013	:	:

【病 院】

安代町国民健康保険 安代診療所	0195(72)3115	岩手郡安代町荒屋新町	車 2 0 分
平館クリニック（外科）	0195(74)3120	岩手郡西根町平館 1 1	車 2 0 分
畠山内科クリニック	0195(75)2355	: 田頭 3 7	車 2 2 分
森整形外科	0195(76)2318	: 大更 2 5	車 2 5 分
西根病院	0195(76)3111	: 田頭 2 2	車 2 5 分
吉田内科呼吸器科医院	0195(76)1100	: 大更 2 1	車 2 5 分
瓜田外科胃腸科医院	0195(76)3220	: 大更 2 1	車 2 5 分
嶋 医院	0195(76)4131	: 大更 2 3	車 2 5 分
東八幡平病院	0195(78)2511	岩手郡松尾村柏台 2 - 8	車 2 0 分
岩手医科大学 高次救急センター	019(651)5111	盛岡市内丸 1 9 - 1	車 6 0 分